

3. 救援物資を運べ！

1. 概要

- ・ 備蓄倉庫から避難所まで、限られた道具を使ってより多くの物資を運ぶ。

2. 対象

- ・ 小学生（4-6年）から高校生まで（1チーム4～6名）

3. 準備するもの（1チーム分）

・ 救援物資：

大きめの皿①、輪ゴム 30 本、ビー玉 30 個、ゼムクリップ 75 個、ペットボトルのキャップ 6 個 ※数や形をそろえる。

・ 運ぶ道具：

大きめの皿②、ストロー1本、ひも（100mm）1本、割りばし1膳（割って使ってもよい）、つまようじ1本、マグネット1個、紙（80mm×100mm）1枚



4. 展開（45～50分）

(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム決め、スタートとゴールの設置、準備、ストーリーの紹介 ○備蓄倉庫と避難所の位置を決める。（距離は約3m50cm） ○備蓄倉庫として大きめの皿①に救援物資を入れる。 ○避難所として大きめの皿②に運ぶ道具を入れる。 ○時間の管理を行う。 ○ストーリーを紹介する。 <p>「災害が起きて多くの方が避難所に避難しています。着の身着のまま逃げているため、一刻も早く救援物資を運ばねばなりません。みなさんは救援物資を運ぶボランティアです。使える道具が限られています。チームで工夫をして早く運んでください」と伝える。</p>
(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具の配布、ルール説明 道具を各グループに配り、ルールを説明する。ルールシートを配ってもよい。ルールシートは付属CD-Rに収録。 ①避難所の位置から運ぶ道具を持ってスタートすること。備蓄倉庫まで行き救援物資を再び避難所に持ち帰る。 ②道具は一人にひとつしか使えない。片手で使うこと。もう片方の手は使えない。 ③救援物資は手で触れない。 ④途中で落とした救援物資は倉庫に戻す。（その時だけ手で触ってよい） ⑤制限時間は5分。運び終えるまでに要した時間を競う。
(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目：合図で一斉にスタートさせ、時間が来たら終了させる。
(5～10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 判定～ふりかえり～作戦会議→観察者（他の教職員）をつけるとなおよい。時間内に運び終えたチームのタイムを記録しておく。終了後、各チームで結果を確認させ、2回目にむけて作戦を立てさせる。1回目でよかったところ、もっと改善できるところを話し合わせる。
(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回目：合図で一斉にスタートさせ、時間が来たら終了させる。
(15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえり・解説 ふりかえりシートを配って、ふりかえりを行う。※15分を、ふりかえりと解説に分けて指導する。

防災コミュニケーションワークショップ (BCW)
〈 救援物資を運べ！ ルールシート 〉

【ストーリー】

災害が起こり多くの人が避難所に避難しています。着の身着のまま逃げてきているため、一刻も早く救援物資を運ばなければなりません。

みなさんは救援物資を運ぶボランティアです。使える道具が限られています。チームで工夫して早く運んでください。

【ルールの説明】

1) 救援物資を備蓄倉庫（スタート地点）から避難所（ゴール地点）まで運び終えるまでにかかった時間を競います。

2) 制限時間は5分間です。

3) 救援物資は次のとおりです。

ア 輪ゴム	30本
イ ビー玉	30個
ウ ゼムクリップ	75個
エ ペットボトルのキャップ	6個

4) 運ぶ道具は次のとおりです。

ア ストロー	1本
イ ひも (100mm)	1本
ウ 割りばし (割って使ってもよい)	1膳
エ つまようじ	1本
オ マグネット	1個
カ 紙 (80mm×100mm)	1枚

5) 運ぶ道具は、1人ひとつしか使えません。

また、片手しか使えません。（もう片方の手は使えません。）

6) 救援物資は手で触れてはいけません。

7) 途中で落とした救援物資は備蓄倉庫に戻すことで、再び運ぶことができます。（その時は、手で触れてもかまいません。）

プログラム内容の反省でなく、CRM、ノン・テクニカル・スキルのなふりかえりができるように、ふりかえりシートを児童・生徒に配付・記入させ、このプログラムで本当に伝えたいことを指導する時間にする。

児童・生徒のふりかえりシートへの記入例	評価のポイント	該当する主な CRM ノン・テクニカル・スキルのポイント
課題を達成するためにメンバー間で話し合った。	メンバー全員で情報共有ができているか。	①コミュニケーション
課題を行いながらも、メンバーが手を止めることなく、改善するための話し合いを続けられた。	作業を行いながらも意見交換を活発に行い、改善しているか。	①コミュニケーション ④問題解決
メンバーの意見を聞くことができた。	メンバーに「ちょっと待って！」などと声をかけられているか。	②状況認識
出てきた意見を言いつけなしでなく、取りまとめることができた。	意見の対立が起こった時にお互いの意見を聞いて対処しているか。	③リーダーシップ（チーム作り）
多数決をとるのではなく、お互いの意見を出し合って、納得する形で進められた。	チーム全員が納得する形で進めているか。	③リーダーシップ（チーム作り） ④問題解決
作戦会議でチームメンバーの意見交換・共有の場にした。	1回目と2回目によりよいやり方に変えるために適切なプロセスで決めているか。	①コミュニケーション ③リーダーシップ（チーム作り） ④問題解決
自分がチームで果たす役割を自覚し、できることをやった。	メンバーそれぞれが自分に与えられた作業を協力的に行えているか。仲間外れはいないか。	①コミュニケーション ⑤タスク（役割）配分
限られた時間の中で自分たちのチームの目指す方向を共有した。	作戦決定の方法はスピードを重視しているのか。プロセスを重視しているのか。	④問題解決 ⑤タスク（役割）配分

解説

困難な状況の中でも、うまく適応できる力をレジリエンスと言います。この困難な状況からの回復には、心のもちようの方が、これまでの経験よりも効果があると言われていています。コミュニケーション能力は、そのレジリエンスの特徴を高めます。

震災後の復興のグラウンドデザインや、まちづくり構想等は、住民のみなさんのワークショップなどで創りあげられていますが、メンバーのコミュニケーションが深まるにつれて、よりよい計画になっているという例もあります。コミュニケーションによってチーム力が高まり、チーム力がよい判断を生み、いのちを守る行動へつながります。